

2012年1月30日

世界手話通訳者協会取締役会を代表して、新アジア地域代表が決まったことをお知らせいたします。インドのモニカ・プンジャビと日本の梅本悦子が分担して受け持ちます。この地域は非常に広範囲で言語も文化も多様性があるため、これまでにない方法で地域に貢献するという、素晴らしい機会が得られたとみなしています。2011年ダーバンでの総会で、地域によってはこのような選択もいいのではという意見が出ていました。理事会は内規に基づきこの指名を認めました。また、今期の残り3年間での共同代表制の評価ができる機会と考えています。どうか私たちとともに、悦子とモニカの理事会入りを歓迎してください。私たちは彼女たちが前代表である市川恵美子さんの業績を引き継ぎ、発展させるよう願っています。

新代表について：

モニカはインドにおける手話通訳専門職のパイオニアです。彼女はインドでもっとも実践的な一年間の資格プログラムを終え訓練を積んだ初めての通訳者で、公認の通訳者となりました。モニカはろうの両親から生まれ流暢なインド手話を習得しており、4つの音声言語も堪能です。インドや海外でも長年にわたりフリーの通訳者をしていました。現在はろう者のためのインドールバイリンガルアカデミーのインド手話学科の科長です。彼女はバイリンガルアカデミーでの仕事のなかで、手話や手話通訳について様々な養成プログラム指導を5年以上行ってきています。彼女はまたインド手話通訳者協会（ISLIA）の会長でもあります。

梅本悦子は 優秀な指導者です。滋賀県大津市在住です。1983年東京都三鷹市登録手話通訳認定試験、その後東京都登録手話通訳認定試験に合格し、現在手話通訳者として活動。1989年に創設された手話通訳士一期合格。2000年から滋賀県及び大津市登録手話通訳者。2001年から全国手話通訳問題研究会滋賀支部運営委員、副会長を歴任。2010年より一般社団法人全国手話通訳問題研究会執行理事、国際部長。その他、福祉専門学校等で形態別介護技術（手話実技指導を含む）を教えています。

代表お二人が実り多い会議を行い、定めた目標に到達できるよう全力を尽くせることを願いましょう。



デブラ ラッセル WASLI 会長